

主の2024年を迎えました。一年最初の日に、能登半島地震が起き、多くの方々が被災されました。2日には羽田空港での航空機の事故がありました。私たちはいつどのような出来事に遭遇するかわかりません。主の守りをいただきながら、常に主の御前に立つ備えをしなければと思われました。

さて、今日は今年最初の主日ですので、新しい年、また2024年度の歩みに向けて、みことばの導きをいただきたいと思ひます。宣教開始60周年を経て、教会は次の時代に向けて歩みを進めてまいります。そこに神がどのような祝福を備えてくださるのか、また私たちに何を求めておられるのか、祈りつつ導きをいただきたいと思ひます。次の時代を考える時に、信仰の継承、働きの継承のための取り組みと、教会と私たちに与えられた使命の確認が必要です。私たちの教会は教会員の半数が70歳以上となり、次の時代に向けて備えなければならないと思われています。そのために主がみことばによって教会をどのように導いてくださるのか祈り求めてきましたが、今朝はハガイ書2章9節のみことばを心に留めたいと思ひます。「この宮のこれから後の栄光は、先のものにまさる。一万軍の主は言われる—この場所にわたしは平和を与える。一万軍の主のことば。」と記されています。主は「これから後の栄光」を約束してくださっています。それは「先のものにまさる」と告げられています。

神のみこころはご自身の栄光が現されることです。神が完全であられること、そしてその尊さ、素晴らしさ、偉大さ、麗しさ、その神の栄光を、神は創造のみわざを通し、自然界にそして神に造られた人を通して現されるのです。これまでも、そしてこれからも、神の栄光が現されることは神のみこころです。しかもこれから後には、これまでにまさって、更に明確に神の栄光が現されると約束されているのです。教会のこれまでの歩みの中に、そして教会に連なる私たちを通して、神の栄光は現され、神の御名が聖なるものとされて来ました。そしてこれから後も、神は栄光を更に鮮やかに現してくださるのです。

ハガイ書は、神がお立てになった預言者ハガイによってエルサレムに帰還した民に告げられた神のみことばです。1章8節に、「山に登り、木を運んで来て、宮を建てよ。そうすれば、わたしはそれを喜び、栄光を現わす。」と記されています。これがハガイ書のメッセージです。荒れ果てたエルサレムの神殿と城壁を築き直すようにと、神が求めておられることがイスラエルの民に告げられました。ソロモン王が建てた神殿はバビロンの王ネブカドネツアルによって破壊されました。そして民は70年間捕囚となりました。その後、ペルシアの王クロスは捕囚の地にいたユダヤ人たちに、エルサレムに帰還して神殿を再建するようという布告を出したのです。エズラ記に記されています。そこでユダの総督ゼルバベルと大祭司ヨシュアに率いられた民の約5万人がエルサレムに帰還しました。彼らはBC538年に捕囚の地からエルサレムに戻りましたが、そこは荒れ果てていたのです。帰還した民は、再建に取り掛かりました。ペルシアの王クロスによる資金や物資の援助があり、彼らは神殿再建の工事に取り掛かり、ついに基礎工事を完成させました。

ところが、その地に住むサマリア人たちによる妨害によって工事を続けることができなくなったのです。サマリア人とは、かつて北イスラエルがアッシリアによって滅ぼされ、捕囚の地に捕え移された時に逆に移住してきたアッシリア人と、残されていたユダヤ人との間に生まれた人たちでした。彼らはユダヤ教の一部を受け入れつつ異教を信じていました。このサマリア人たちが、自分たちも神殿建設に関わらせてほしいと申し出たのですが、帰還した民はそれを断り、そのために建設を阻止しようとする激しい妨害を受けることになりました。再建工事は中断したまま16年程経過した時に、神はハガイとゼカリヤという預言者をお立てになりました。預言者の働きを通して「宮を建てよ」と仰せられ、その神のみことばに励まされて民は神殿建設を再開させたのです。その様子はエズラ記5章に記されています。再び周囲の住民からの反対を受けましたが、神の約束を信じて工事を続けました。反対者たちはペルシアの王ダリヨスに手紙を送りましたが、王は工事を続けることと建設に必要な材料を調達するようにと命じたのです。

ハガイは神の民に優先順位について考えるよう勧めました。1章4節に「この宮が廃墟となっているのに、あなたがただけが板張りの家に住む時だろうか。」と語ったと記されています。また2章3~4節を見ますと、神は民に次のように告げておられます。「あなたがたの中で、かつての栄光に輝くこの宮を見たことがある、生き残りの者はだれか。あなたがたは今、これをどう見ているのか。あなたがたの目には、まるで無いに等しいのではないか。しかし今、ゼルバベルよ、強くあれ。—主のことば—エホツァダクの子、大祭司ヨシュアよ、強くあれ。この国のすべての民よ、強くあれ。—主のことば—仕事に取りかかれ。わたしがあなた

がたとともにいるからだ。——万軍の主のことば——」と。ソロモン時代の神殿を知っている者たちにとって、再建された神殿はかつてのようにきらびやかでなくても失望しないようにと、そして「強くあれ・強くあれ」と仰せられたのです。また5節には「あなたがたがエジプトから出て来たとき、わたしがあなたがたと結んだ約束により、わたしの霊はあなたがたの間にとどまっている。恐れるな。」と語られたとあり、彼らの先祖たちにかつて約束されたことは今も変わることがないと告げられています。そして「わたしはこの宮を栄光で満たす。」と約束されたのです。7節に記されています。こうして9節のみことば、「この宮のこれから後の栄光は、先のものにまさる。——万軍の主は言われる——」という約束に続いているのです。

今の時代、各地に立てられた教会は、主の教会としてその地域にあって神の栄光を現すために立てられています。またイエス・キリストの十字架の福音を宣べ伝え、その地に住む人々が救われるために、主は教会を用いようとされています。私たちは常にそのことを覚えて歩みを進めなければなりません。働きを始められた主は、初めの約束を忘れることなく、今もそしてこれから後も、その祝福のうちに私たちを導いてくださいます。更にこれから後の歩みについて励ましてくださっています。「これから後の栄光」を約束しつつ、「強くあれ・強くあれ」と仰せになり、「仕事に取りかかれ」と語ってくださるのです。教会を通して、また私たちの歩みを通して、これから後も神の栄光が現されることを信じ、恐れたり尻込みしたりすることなく、なすべき働きを共に担わせていただきたいと思ひます。

今朝は最初に、次の時代を考える時に、信仰の継承、働きの継承のための取り組みと、教会と私たちとに与えられた使命の確認が必要だと申しましたが、次の時代の教会を担う人々に、主なる神に信頼して歩むその信仰をしっかりと継承すること、またこれまでなされてきた働きを受け継がせていくこと、そして教会に与えられた使命である福音の宣教に励むことを、このみことばを通して主は求めておられます。教会の歩みは、ここ数年これまで経験したことのないコロナウイルスの感染拡大によって働きの停滞を余儀なくされて来ました。しかしその中であつても支えられたばかりか、新しい取り組みに目覚めさせられることもありました。神は常に最善であられることを、また主は全てのことをご支配なさるといふこと覚えさせられました。8節には「銀はわたしのもの。金もわたしのもの。——万軍の主のことば——」と記されていますが、この経験を通して全ては主のものであると再認識させられました。その私たちにハガイの預言のみことばを通して主は語っておられるのです。「この宮のこれから後の栄光は、先のものにまさる。——万軍の主は言われる——」と、これから後も教会を通して、私たちを通して神の栄光が現されると約束されているのです。また「この場所にわたしは平和を与える。——万軍の主のことば。」と語られています。「平和」は争いがないということですが、また『平安』であることを意味します。「この場所に」と、教会の働きに、また私たちの内に主は平安を約束しておられます。新しい年そして新年度の歩みを通して、神の栄光が現されるように、また平安の裡に導かれますようにと願われます。みことばの約束を信じて与えられた宣教の使命に励みたいと思ひます。コロナ以前のように、イエス・キリストの十字架の福音を宣べ伝えるための働きを計画し、人々を主のもとに招きたいと思ひます。

私たちは多くの恵みをいただいて今があることを覚えます。その恵みに感謝しつつ、困難な状況にある教会のことも覚え、キリストのからだとして教会は一つであることを働きの中で具体的に組み立てていかなければなりません。そのような大きな使命をいただいているのですが、そのために置かれているこの地にあって、忠実に主にお仕えし、次の時代を見据えた働きを続けさせていただきたいと願われます。新しい年、また4月からの働きを主が豊かに祝福してくださるよう、共に祈りましょう。そして与えられた使命を果たしつつ、これから後の栄光を拝ませていただきましょう。